議員団ニュース

日本共産党平塚市議会議員団
団長　高山和義
電話・FAX　31－4638
k.takayama@mb.scn-net.ne.jp
松本敏子
電話・FAX　59－4607
mail@matsumoto-toshiko.jp
渡辺敏光
電話・FAX　31－6431
w-toshi@agate.plala.or.jp

日本共産党平塚市議会議員団
電話０４６３－２３－１１１１（内線２３７５）
平塚市浅間町９－１　平塚市議会控室

無料法律相談
次回は１１月１６日（木）
午後４時～６時（要予約）

№１４２７　２０１７年　１１月　５日号

続　２０１６年決算報告

平塚市の財政状況は健全か
ー「将来負担比率」から検証するー

その自治体の財政状況が、健全かどうかをみるポイントとして、３点あると考えています。

① 財政状況に柔軟性があるかどうか。
② 歳入と歳出にバランスがとれているかどうか。
③ 将来的に安定した財政状況を維持していけるかどうか、です。

① は「経常収支比率」ですでに、このニュースで見解を述べてきましたが、２０１６年度は９４.５％（２０１５年度は９３.１％）。

再度ポイントを述べると、「経常収支比率」をだす経費（人件費や扶助費公債費その他の合計は－

２０１６年度＝４５６億５９７１万余円

２０１５年度＝４６３億１００１万余円で６億５０２９万千円減少しています。

一方「比率」をだす歳入（経常一般財源といいます）はー

２０１６年度＝４６７億９６９２万余円

２０１５年度＝４８０億５７３５万余円で１２億６０４３万余円の減。

今後、歳出削減で「経常収支比率」の改善は難しいのでは、と考えます。

１０月８日号の「議員団ニュース」で報告しましたが、県内近隣９自治体では本市の「経常収支比率」は、比率が高い方から６番目ですから、「健全」と言えます。

② は「実質収支比率」です。すでにお知らせしているように、本市は標準的な率より高い率（（６.９％、理想は３から～５％）ですから、２０１６年度３３億５７００万余円の残は、収支はバランスとしてはどうでしょうか。

③ は「健全化判断比率」の一つの指標です。

判断比率は４項目あります（下記の表参照）。

＜健全化判断比率＞

	2015年度	2016年度	早期健全化基準
実質赤字比率	－	－	11.27
連結実質赤字比率	－	－	16.27
実質公債費比率	2.6	2.2	25
将来負担比率	0	16.7	350

「実質赤字比率」は一般会計等の収支。「連結実質赤字比率」は全ての会計を合計したものの比率です。両比率とも数字が算定されず、まったく問題がないというものです。

15年度から１６年度、大きく変動があったのが、「将来負担比率」です。０から１６.７％にあがっています。

現在の「地方債現在高」や「債務負担行為額」等（借金等）に対し、それらに対応できる財源等があるかという比率です。「早期健全化基準」では３５０％ですから、１６.７％はまったく問題がありませんが、比率が０からあがっているため、厳しい状況と思われる方もいられます。

次ページの表は「将来負担比率」を計算するためのもので、３年間の動きを示しました。

ポイントだけ述べる、将来負担額は若干増えただけです。「充当可能財源等」が前年度から約65億６千万の減少。理由は「平塚市庁舎建設基金」や「平塚市競輪場施設整備基金」がともに建設工事、大規模改修工事を実施したためです。

目的を特定した基金の減少が主なものですから、市政運営には今後も大き

（裏面に続く）

（表面からの続き）

く影響はないと考えます。

よって①②③の健全かどうかをみた場合、現在健全と判断できます。

＜将来負担比率＞（単位：千円、％）

	２０１４年	２０１５年	２０１６年
将来負担額	104,456,801	103,816,900	104,385,862
（地方債現在高）	53,292,916	53,519,713	54,739,526
（債務負担行為額	1,321,611	862,425	1,060,911
（その他）	49,842,274	49,434,762	48,585,425
充当可能財源等	104,208,620	103,803,221	97,240,789
（基金残高）	18,891,971	20,143,842	16,993,264
（特定財源・他）	85,316,649	83,659,379	80,247,525
標準財政規模	47,791,511	48,453,987	48,585,126
基準財政需要額算入	6,189,598	5,685,857	5,823,645
将来負担比率	0.5	0	16.7

決算委員会審査から－

平塚市美術館の開館25周年企画展－市美術館の使命に強く共感し評価する

２０１６年度は、平塚市美術館の開館２５周年の年でした。それを記念する企画展が３企画実施されました。

どれも素晴らしい企画で、多くの観覧者がありました。

今回の決算委員会で特に取り上げたのは、９月から１１月に行われた

香月泰男と丸木位里・俊、そして川田喜久治―シベリアシリーズ・原爆の図・地図―についてです。

どれもが迫力があり、重く、作品からどう思うかと、強く問いかけられているように感じ、多少疲れも感じるものでした。

決算委員会で評価したのは、この内容の素晴らしさと同時に、館長からの取り組みの想い、「美術の使命」に強く共感したことです。

平和に対する思い、とりわけこの平塚市が１９４５年７月の空襲で、多くの市民が犠牲になった市にある美術館としての使命があると、会場の入り口に掲げられた「館長のメッセージ」は重いものがありました。

その一部分ですが、平塚市美術館の許可を得て、ここで紹介します。

（２０１６年度　共産党市議団の決算委員は渡辺敏光）

平塚市美術館からのメッセージ　ー館長　草薙奈津子

（渡辺の責任による抜粋）

今年、平塚市美術館は開館２５周年を迎えました。それを記念して「香月康男と丸木位里・俊、そして川田喜久治―シベリアシリーズ、原爆の図、地図―」展を開催します。

周年事業にしてはずいぶん暗い展覧会をする、とおっしゃる方もおられました。

確かに決して視覚的に明るい展覧会ではありません。しかし美術館には使命があります。

美術館の来館者は、下は０歳児から、上は来館可能な方でしたらどなたでも大歓迎です。（略）多くの方に楽しんでいただくということは大切なことです。

しかしそれだけでは美術館としての指名を果たしているとは言えない、と私は思っています。

ときには美術館からなんらかのメッセージを発することが大切だと思っています。

平塚市は昭和２０年７月１６日から１７日にかけて大規模な空襲を受けました。

Ｂ２９から投弾された焼夷弾は、全国で八王子、富士につぐ３番目の多さだったそうです。多くの方が亡くなり、傷を負いました。（略）

平塚美術館がこういう都市にあることを忘れてはいけないと思っています。

美術館の私たちも平和を願う気持ちを何らかの形で伝えたいと思いました。

２０１６年９月１７日～１１月２０日開催

観覧者数　１０,８４３人